

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
	開会・挨拶
事務局	それでは時間と成りましたので、知床国立公園適正利用エコツーリズム検討会議ウトロ海域部会の今年度第2回の部会を開催させて頂きたいと思ひます。まずはじめに開催に先立ちまして釧路自然環境事務所次長の中山から一言御挨拶をお願いします。
環境省	釧路自然環境事務所中山でございます。一言ご挨拶させて頂きます。まずは御礼から申し上げさせて頂きます。本日は大型観光船、小型観光船、シーカヤック事業者など地元関係者の方々の多くがお集まり頂いております。お忙しい所お時間を割いて頂き誠にありがとうございます。また遠い所からは東京から、または札幌から先生方にもお集まり頂きまして誠にありがとうございます。 この会議は海域部会という事でございますが、一つのテーマとしてケイマフリという鳥を話題としているという事で、私も以前札幌に居る時に初めて見たんですが、赤い足が特徴的で非常に綺麗で可愛い鳥だなと思っておりました。このケイマフリという鳥が非常に貴重な鳥で、同時にこの地域ではエコツーリズムの一つのシンボリックなものなのだろうと思っております。資料を見させて頂きました。地元の皆様方がデコイを使ってアピールして頂いたり、観察記録を付けて頂いたり、色々な形で御協力をして頂いております。後で報告があると思ひますが、今年のケイマフリの観察では少数が増えているようだ、というような結果も出てきておりますので、だんだん良い方向にうまく回っているのかなと認識しております。保全をするというだけでなく、上手く利用して経済も上手く回していくという所もエコツーリズムの面白い所でございますので、そういった良い形を今後も作って行けるようにしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願い致します。
事務局	資料確認
事務局	それでは議事を進めさせて頂きたいと思ひます。今回も座長を敷田先生をお願いしておりますので、それでは敷田先生、どうぞよろしくお願い致します。
敷田委員	皆様お忙しい中、またお疲れの所お集まりいただき誠にありがとうございます。今回からウトロ海域部会として名称が変わりましたが、今回も有意義な議論が出来ればと思っておりますので皆さんよろしくお願い致します。 それでは議事に入りたいと思ひますが、その前に前回の会議からも日が経っておりますので、記憶を呼び起こすためにも、この事業の目的の再確認したいと思ひます。事務局から説明があるそうなので、よろしくお願い致します。
	議事
	1. 検討会の目的進め方について
環境省	・検討会の目的について説明 (パワーポイント資料)
敷田委員	ありがとうございました。只今の事務局の説明に対し何かご意見など御座いますか？ 無ければ次の議題に進めさせて頂きます。まず最初に1番目の議題の本年度事業実施報告として4つ程の報告があります。最初にウトロ海域海鳥調査の中間報告でございます。御説明の方よろしくお願い致します。
	2. 本年度事業実施報告
	・ウトロ海域海鳥調査報告(中間報告)
知床海鳥研究会(福田氏)	福田です。よろしくお願い致します。現在海鳥センサス調査の方は継続中ですのでケイマフリの調査結果を中心に中間報告として報告させて頂きます。 (以下、調査結果概要報告) (資料 2011年度海鳥調査 中間報告)
敷田委員	御報告ありがとうございました。それでは今の御報告についてお話したいと思ひますが、その前に鳥類研究の御専門家であります小城先生よりコメントを頂ければと思ひますが先生よろしいでしょうか？是非よろしくお願い致します。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
小城委員	<p>現在日本で繁殖しているケイマフリというのは非常に少なく、恐らく700個体以下程度と思われます。またほとんどの繁殖地で減少傾向にあります。ケイマフリは非常に美しい声で鳴きます。海のカナリアとも呼ばれています。この会議に来る前に山階鳥類研究所の人とも話をしてきましたが、ケイマフリは非常に神経質な鳥で、雛に餌をやる時にすぐに巣穴に入ってしまったたり、人間の視線を感じると巣に入らなくなったりします。生息数が減ってしまった場合の対処として色々とお話しましたが、給餌の大半はおそらく午前中に行われているだろうと。そうすると雛が孵ってから巣立つまでは可能な限り接近しない事が必要であると思います。ここウトロは観光事業が盛んな所ですから、いきなりそういう事は難しいと思いますが、例えば午前中だけでも近付かないとか、最悪の場合はそのような提言をせざるを得ないだろうと思います。</p> <p>今回の調査結果を見るとケイマフリは増えてるんですね。この会が始まる前にも福田さんと検討したんですけど、どう考えたら良いか、その原因が良く解らないんですね。ただ私は毎年北方四島に行っておりますが、6月頃根室と古釜府の間でたくさんのケイマフリを見る事が出来ますが、ここ3年間は増えてる感じはしませんね。それも不思議だなと思っていました。</p> <p>なぜ知床で増えてきているのか？という事が福田さんも含めて悩んでいるんですが、この事業が始まるまで福田さんがケイマフリの情報を提供していたり、この検討会が始まってからも皆さんでケイマフリの話題を色々お話ししてきましたので、皆さんがケイマフリの事を知ったので、ある程度ケイマフリへの配慮が成されていたのではないのでしょうか？知らないで接するのと、知っていて接するのでは大分違ってくるのではないのでしょうか？抽象的で観念的な話で研究者がこんな事を言うてはいけませんが、どうもそんな気がしています。ただこれで喜ばれてはいけなくて来年さらにケイマフリの情報をよく学んで下さって、海鳥を見て下されば、またその原因が明らかになってくるのではと思います。わたしも色々な情報を提供できればと思っています。今まで私自身は、こういうような現象を経験した事が無かった物ですから非常に驚いています。やはり自然保護というのは個人の仕事では無いですね。みんなが集まって配慮するという事が必要で、このケースでは皆さんが一丸となってケイマフリに取り組んだ結果で、まだ原因よく解っていませんし、2～3年経てくると原因がもっと解って来ると思うんですが、船の動かし方や鳥への接し方など、ほんの微妙な事でも、何か効果が出てきたのではないかなと思っています。</p>
敷田委員	<p>ありがとうございます。福田さんから報告と小城先生からのコメントを頂きましたが、その実感や御感想などありましたらお願いします。小型船の皆さんいかがでしょうか？</p>
観光船事業者	<p>そんなにすぐに効果が出る物なのかちょっと疑問なのですが、エサが単純に多かったのか？少なかったのか？エサが多かったから、それだけの鳥がここで生活する事が出来たのか、とも思いましたので、今年についてはエサが多かったのか少なかったのか知りたいですし、古くから遊漁船をやられている方からは昔から比べるとイカナゴが少なくなったという情報も頂いていましたので、そのようなエサが少なくなっている状況で鳥が増えているというのは、どういうことなんだろうと、そのあたりについてはもっと深く知りたいなと思いますね。</p>
敷田委員	<p>どうでしょうか？福田さん、小城先生。福田さんどうぞ。</p>
福田委員	<p>私も船で出ていて感覚的なところでは、イカナゴが増えてるとは感じませんね。定量的な調査はやられていませんからよく解らなんですが、よくイカナゴが集団になって海に沸く事がありますが、それを今年あまり見なかったですよね。ですから特別イカナゴが多いからケイマフリの数が増えたということに結び付いているかという、ちょっと疑問に思いますね。</p>
敷田委員	<p>小城先生どうぞ。</p>
小城委員	<p>ウミスズメ科の鳥は水面から積極的に潜水できますね。ケイマフリですと70～80mぐらい潜水できます。潜水能力が高いので、カモメのような水面付近の物しか食べられない鳥と比べると、まずエサを獲る事への影響というのは考えられません。イカナゴの話ですが、イカナゴは小さい時に一番商品価値があって、大きくなると全く価値が無くなる魚なのですが、イカナゴを減らした沿岸というのは必ず漁業も減っています。もうこれははっきりと言えるくらいです。天売島がその傾向があって、今もうイカナゴはしばらく獲っていませんね。以前、私は尻矢崎でケイマフリの研究をしていたんですけど、沖にハイロミズナギドリなんか騒いでいますとジーッと見えています。ケイマフリは沿岸性なんですけれども、たまらなくなると沖に向かってつがいで飛んでいったりしますね。飛翔力も結構強い鳥ですからね。ですからカモメなどから比べると沿岸の魚が少なくなっても、その影響というのは急には出ないです。イカナゴが居なければ他のカタクチイワシなども獲りますから、単純にイカナゴが減っているからその影響があるとは言えないと思いますね。</p>
敷田委員	<p>ありがとうございます。ゴジラ岩観光さん、いかがでしょうか？</p>
観光船事業者	<p>これまでに福田さんからこういう場でお話しして頂いていて、私の中ではイカナゴがキーなのかなと思っていました。イカナゴが居なくなればケイマフリも居なくなるとことなのだろうと思っておりましたが、それだけではないという事ですね。</p>
福田委員	<p>ええ。。でも私はイカナゴだと思ってるんですね。キーとなるのは。。</p>

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
小城委員	イカナゴってビタミンB2の破壊酵素が無いんですよ。野生動物にとっては理想的な食べ物なんです。ただ人間が食べるとあまり美味しくないですよ。大きい物は、。ところが水族館などでイカナゴを与えると魚が興奮するくらい喜びます。サンマとかマイワシを与える時はビタミン剤を混ぜなければならないんですがイカナゴの場合はそのまま与える事が出来ます。本当は人間も食べたほうが良いんですけどもね。
敷田委員	まだ影響があるかないかの結論は出ていないんですけど、引き続きこういうお話も是非お聞かせ願えればと思います。他の小型船の方々などはいかがでしょう？
観光船事業者	今年こけし岩のところはケイマフリが居れば配慮はしていましたが、他の所ではそれほど配慮していたという事も無かったと思うんですけど、もちろん近くに居れば速度を落としたりの配慮は当然ですが、一概にその配慮が効果があったという実感は無かったですね。
福田委員	今までコキシ岩で2000年代以前はたくさん繁殖していました。それ以降も繁殖はしていた事もあるんですけど、繁殖を途中でやめてしまう事が多かったんです。今年は湾の入口の所にずっと1羽か2羽が見られていたと思うんですけども。(小型船事業者も相槌) あのような状態が見られたのは最近の中では今年が初めてですね。おそらく観光船の配慮して頂いたから、その効果の一つのよい例なのではないかなと思いますね。
敷田委員	船の操船は1時間半から3時間までの長時間に及ぶ訳で、たくさんのやらなければならない事がある中で、常にケイマフリへの配慮をして欲しいということも難しいとは思いますが、それでも今お話を聞いていますと、湾の入り口に常に鳥が居たという所で話を通じるところは、これは進歩だと思しますので、今後も引き続き配慮を情報共有をして頂きたいと思います。その他いかがですか？
観光船事業者	実は私は案内所の勤務で深くは解らないのですが。。あまり船の人間からも、よく話は聞かされてはいませんでした。。
敷田委員	おーらさんはいかがですか？
観光船事業者	私も同様で、あまり具体的な状況は聞いておりませんでしたね。
敷田委員	この会議で話し合われたことについては現場の方々とお話が通じる様にはなっておられますか？
観光船事業者	はい。それは大丈夫ですね。
敷田委員	ありがとうございます。シーカヤックの関口さんはいかがですか？
シーカヤック事業者	福田さんにお尋ねしたいのですが、我々はどこまで近づいて良いのか？というところをいつも自問自答しながら漕いでいるんですよ。その辺は来年に向けてガイドライン的な物も作って行くのかなと思ってるんですけども。。
福田委員	難しいんですよ。はっきり言いますとこれはその時の鳥の気分だと思うんですが、どんなにゆっくり近づいても向こうが嫌だと思ったら、それは駄目なんです。逃げちゃいますね。また安心して結構近くに居たりもしますよね。船の近くにボコつと浮かんできたりしますし。現状ではその時の鳥の状態によるという事しか言えませんが、今後どれだけの距離で逃げていったとか、データを蓄積していけば、そういう事が解ってくると思います。船に乗っていれば感覚的にも解ってくると思うんですよ。
シーカヤック事業者	馴れというのがありますよね。
福田委員	あると思いますね。
シーカヤック事業者	今年は岩尾別海岸から出るようになったんですけども、ウトロで会うケイマフリは最初は30mぐらいで飛んで逃げてしまっていたんですが、毎回通るコースは同じなんですけど、だんだんと馴れてくるのか、10mぐらいでも平気になってきたという事もありました。
環境省	今ガイドラインという話が出てきたんですけど、事業者の方々にとってはガイドラインなどがあつた方がやり易いのですか？
シーカヤック事業者	それを含めての議論になると思います。例えば鳥との距離を何メートル・というふうに決められてしまうと、我々としては非常に怖い所もあります。特にシーカヤックですと風が強い時に例えば距離を100メートル離れて・・・ということになると沖合に100m出なきゃいけないのか？ということになりますので危険を伴います。そのような場面も出ていますので、ビシッと決められてしまうと我々も怖い所がありますけども、いい、悪いということを含めて、自問自答しながら漕いで行くということに関しては、もうちょっとクリアになればいいなと思うんですよ。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
環境省	先ほどの福田さんの話にあったように鳥って不思議なんですよね。目が合っただけで飛んでしまったり、カメラを向けただけで飛んでしまったりしますし、たしかに距離って難しいと思うんですけど、私は前の職場で小笠原諸島で自然保護官をやっていました。結局小笠原の仕事は5年間やっていて父島に3年住んでいたのでですけど、小笠原ではエコツーリズム型の自主ルールというのがあって、ガイドの人たちが自らが自主ルールを作っていて、特にクジラについてはガイドの人たちや観光船の人たちが入っているホエールウォッチング協会というがあるので、マッコウクジラで50m、ザトウクジラで100mというようなルールを自分たちで決めて運用してきた歴史があって、それをちょっと思い出しました。当然役所が決めたルールでは無く自分で議論をして決めてきたルールなんですけれども、それでクジラはよく観察できるようになっていきますし、不意の浮上や危険回避のために近づくのも、しょうがないですし、結構柔軟な運用でも随分役に立っていますので、ガイドラインの話もちょっと出て来ましたので、どっちがやり易いのかな？と思いました。小笠原の場合はルールを決めていった方がやり易いので、皆さんで決めてやっているという感じなんです
シーカヤック事業者	ただ今までの経過の違いというのもあると思うんですけど、その小笠原のガイドラインも出来る前までは相当接近していたんですよ。それでかなりクジラへのストレスが強かったという反省からガイドライン作成への動きに繋がっていったという経過があったと思うんですけど、ケイマフリに関しては今まだ模索状態でやっているという状態ですので、その違いというのは理解した上でどうなんだろう？という話が必要だと思いますね。
敷田委員	少々お話がガイドラインの話に入って行きそうですので、ガイドラインの話は後ほど、また御話しするという事で一旦進めさせて頂きたいと思いますがいかがでしょうか？よろしいでしょうか？再度ガイドラインについての話は後ほど再構築して議論致します。他に御意見は御座いませんか？
桜井委員	もう一度整理させて頂きたいのですが、ケイマフリの抱卵期から育雛期、巣立ちというのはいつからいつまでなんでしょうか？
福田委員	5月初め頃から6月の中旬が抱卵期で、6月中旬から8月の中旬までが育雛期です。巣立ちについてはケイマフリの巣立ちは徐々に親鳥は雛にエサを与えなくなって来ます。雛はお腹がすいて外に出てくるように、巣立ちを促すようにしていると思うのですが、実際に巣立ちの瞬間はなかなか確認する事が出来ません。恐らく安全なタイミングを見計らって外に出てしまうと思うんですよ。
桜井委員	少なくとも巣を利用している時期はいつからいつまで…というような説明出来るものが無いとならないですよ。もう一度確認ですが、およそ5月の中旬から8月の中旬まで巣を使っているという事ですね。
中川委員	福田さんに質問なのですが、この観察されている時期にいる個体というのは繁殖している個体と、繁殖していない個体がいる訳じゃないですか？資料にある増減を見ると明らかに2000年代の前半から徐々に落ちてきて、また最近増えてきているというふうになってはいますが、繁殖数の増加と見て良いのでしょうか。どうですか？
福田委員	資料には出していませんが、今年の繁殖数は多かったです。今年の最高確認数で140羽ぐらいですが、その全部が繁殖を行っているかという、そうは思えません。ただし、その割合がどのくらいか？という、これはまだ解っていないのが実際ですね。
中川委員	なるほど。それと小城先生にお聞きしたいんですけど、エサを獲る時間が多い少ないというのは、その年の繁殖への影響として翌年から増えたり減ったりという事に結びつく可能性はありませんか？
小城委員	ケイマフリはそういうデータが全然無いんですよ。ウトウなんかはイカナゴの資源量の影響を受けるでしょうから、完全に影響が無いとは言えないと思いますけどね。
敷田委員	ほかにケイマフリの生態や調査について何か御座いませんか？それではデコイに関連しても報告頂きましたがいかがでしょうか？小型船にはデコイを付けて頂いたりしたようですが、お客さんの反応などはどうでしたか？
観光船事業者	そうですね。今年ケイマフリの手ぬぐいを各社の店頭で販売しておりましたが、全てどこでも売り切れて好評でした。私も各社さんもそうだと思いますが意外にお客さんは興味を持たれるようで驚いています。
敷田委員	それはすごいですね。今後も継続して販売されるんですか？
観光船事業者	はい。もちろんそうしたいと思います。
敷田委員	シーカヤックの関口さんはいかがですか？結構説明して頂いたという事です。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
シーカヤック事業者	色々工夫したんですけども、デコイはボルトが付いた状態でうまく付ける事が出来なくて、結局は事務所の方に飾っているんですけども。。。手ぬぐいの方は今もボツボツ出ていますね。ただやっぱり一般のお客さんに対してのケイマフリというのは、やはり認知度が低いと思いますね。例えばカヤックですと、うまくすれば飛び立つときの赤い足ヒシが見えるんですけども、そういう距離で見られるにもかかわらず、「あ、かわいい」で終わっちゃうんですけども。もう一歩何か出来ればと思いますね。
敷田委員	それでも「かわいい」と言って頂けるだけでもだいぶ進歩してるなと思いますけれどもね。もう少し、せつかく地域に専門家も居る訳ですからね。。。寺崎委員、そういう生物をPRする場合、初期としては「かわいい」とか、そんな感じでしょうか？
寺崎委員	そうですね。その時何を伝えたいかにもよりますし、どういう逢わせ方をしたかにもよりますよね。これは関口さんなどはプロなんでしょうけども、こちらから一方的に伝えたとこで印象に残らないでしようけど、自ら発見するように仕掛けて、それに対して興味を持って頂いたところで、何か一声を掛けてあげたりすると、凄く心への残り方や、生物への愛着や興味が変わりますので、質問の答えにならないかもしれませんが、初期の引きあわせ方によって、全然心への残り方が違うと思うんですけども。
敷田委員	小笠原でやられていた中山さん。いかがでしょうか？
環境省	先ほども話をしていたんですけども、私が今携帯電話のストラップとして付けているんですが、これは小笠原だけに50～60羽しかいないと言われているアカガシラカラスバトというんですけども、これは僕の友人に造って貰って1個1000円ぐらいするんですけども、これは僕が私財を投じて型を作って、遊びで作った時に400個ぐらい売れて、そのあと「これは売れるから売って下さい」と言って観光協会とかいるんな所において売ってもらったんです。もう型は譲ってしまって勝手に売って下さいと置いてきたんですけども、結局700～800個は売れてるはずですよ。やっぱりお客さんとしては、この鳩は小笠原に40羽から60羽くらいしか居ないので、ほとんど実際に見る事が出来ないんですよ。ガイドの人はその森にお客さんを連れて行って、「ここにはこういう鳥がいるんですよ」という説明をするだけなんです。それでもお客さんは見る事が出来なくても納得して帰って、それでこういう物を購入して満足してくれるんですけども。こういう物を用意するだけでお客様は満足してくれるので、こういうところから入っていくのもいいのではないかと思いますね。
敷田委員	ありがとうございます。手ぬぐいの売れ行きが好調なので、違う物もやって頂いてよいのではと思いますね。説明のタイミングですとか、最初の見せ方とか、ケイマフリはもっと身近に見れますしね。
環境省	鳩の場合はもう一つ、鳩の研究者を見せるというのもやっていますね。鳩は見れないので、ジャングルの中に鳩の研究者が迷彩の服を着て隠れてるんですが、それをガイドの人が見せていくというのをやっていますね。
観光船事業者	ここでいうと福田さんを沖合に居てもらってですね。(笑)
福田委員	ゴジラ岩観光の船長さんには、よく説明してもらっていますけどね(笑)
観光船事業者	福田さんを調査するようなのはどうですか？小型船協議会でケイマフリの衣装を用意しますから(笑)
敷田委員	それはなかなか良いアイデアですね。福田さんが例えば喜びそうな団体客の時に乗船して頂いて、実際にケイマフリを見せるという、そんなツアーが組めれば面白いですよ。
観光船事業者	ケイマフリの居ない時期には、そういう効果が見れるのかなと思いますね。
敷田委員	寺崎さん、現実にそういう事は出来ませんか？
寺崎委員	ここで出来るか解りませんが、どんどん脱線していきんですけども、小笠原のアホウドリのデコイを付けて観察をしている人が婿島にいて、実際に私も見に行った事があるんですけども、その調査員たちがテントを張ってそこでキャンプをして生活をしている所を見るだけで、そこからすごく気持ちも盛り上がり、実際にデコイも見たんですけども凄く印象に残っています。強烈に鳥に対する意識が高まりましたから、福田さんをそういうふうにする案には賛成です。
敷田委員	御本人の意思を確認しないで申し訳ないですけども、小型船協会の方で、来シーズンは一度、観察している人の資源化を考えて頂けないでしょうか？この事業にも直結して非常に重要になって来ると思いますので、ケイマフリの居ないシーズンでも出来ますしね。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
福田委員	観光船側から見れば、ケイマフリの居ないシーズンにお盆とか夏のピークがありますよね。そういうシーズンに普及のためにデコイを浮かべておくというのは一つの方法だと思いますね。私も天売島で調査していた時に、展望台から見るとところにウミガラスは居ないんですけど、デコイがいっぱい見えるんですね。お客さんは、デコイを見ても喜んで帰っていくんですね。そういう位置づけとして、ケイマフリの居ない時期にもう少し数を増やして航行の邪魔にならない所に置いてPRするのはどうかと思います。
敷田委員	なるほど。来年真剣に考えて頂けないでしょうか？寺崎さんの話や中山次長の話もありましたので、是非ご検討願いたいと思います。
環境省	見せ方というのがありますからね。本当に。
桜井委員	生き物としての面白さ。これをもう少し伝える必要があると思っていて、例えばケイマフリというのは海岸を飛ぶときに非常に綺麗に飛びますよね。それを撮影してスローで見せるとか、もし出来れば水中を泳ぐ姿などを映像として見せるとか、視覚で訴えるような映像をもう少し上手く使うという手があると思います。キャラクターグッズの様なものも良いですが、ステップがあると思います。まず一つは「生き物としてのケイマフリを知る」、次に「実際に見ることができる」、見ることによって、その次のステップとして関連したグッズを買う。動議づけのなかに良いイメージを与えるという工夫が大事なんじゃないかなと思います。
敷田委員	桜井委員から、キャラクターグッズなどもいいが、ケイマフリの生態や美しさ、可愛らしさの魅力を伝えるビデオ素材などがあると良いのではないかと？という御意見を頂きました。ごもっともな御意見と感じましたが、こういう素材があると利用できますよね。いかがでしょうか？
シーカヤック事業者	利用できますよね。今、お客さんに見せようと思っていても、現物以外では、シーカヤックやりながら写真を撮るといっても難しい所がありますので、そういうビジュアル的な物があるといいですね。また例えば知床に泊まったらこの宿泊施設でもケイマフリの可愛い、カッコいいデコイやレプリカみたいのがパッと目に入って来るようなものでも、それだけでも大分印象が違って来ると思いますね。
敷田委員	ありがとうございます。色々なご意見があると思います。来年度に向けての話も後半に入ってきますが、このようなコンテンツ開発の話も今のように非常に意見交換がスムーズに出来ますので、進めてもよろしいのではないかと思いますがいかがでしょうか？
桜井委員	もしロゴマークなどが使えれば例えばウトロ産の漁協さんから出す魚に、ブランド用のマークとして、そのロゴマークを付けて頂くとか。そういうやり方もあると思うんですよ。次のステップですね。
敷田委員	山本さん(ウトロ漁協)のところで作って頂くと更にいいというお話なんですけれど、どうでしょうか？
桜井委員	次のステップがありますからね。それを眺みながら行くというのでもいいと思うんです。これがウトロの一つのイメージとして使えればいいと思います。その魚を見てマークが付いていけば「これはウトロ産だ」ということで解りますよね。
敷田委員	いかがですか山本さん(ウトロ漁協)。漁業と関係が無い訳ではないですよね？先ほどのお話からするとね。。
ウトロ漁協	仰ることは解るんですが、この漁業はサケマス漁業のスタイルでして、また市場が無い。一般の消費者に販売するという事では、地理的な事もあってあまり積極的ではありません。。しかし今日もそうだったんですが、一般の人はサケマスを見たいんですね。港の作業の邪魔になったりもするので、見るなら安全な所で見て下さいともいうのですが。。 サケマスの販売については基本的には漁連共販で北海道ぎょれんという所への共販制なんです。卸売りで仲買人さんに売ってるんですね。一般の消費者にも売りたいんですけども、なかなか難しい所もあるんです。直販店もやっていますけれども、その部分では多分協力は出来ると思いますが、一般消費者に広く売るといのは難しい所があります。
敷田委員	例えば、今立派な港を作っていますが、その案内板のマークにする事なんかは不可能ではないですよね？
ウトロ漁協	ただし国で作った港ですからね。。
敷田委員	使われるのは漁業関係者さんですよね。
ウトロ漁協	しかし施設上は第4種漁港ですから。。
環境省	対馬では「ツシマヤマメコ空港」というのもありますし、釧路空港は「たんちょう釧路空港」ですもんね。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
桜井委員	希少であるがゆえに国としても価値が高いというのがあると思います。
ウトロ漁協	なるほど。国もその話には乗ってくれるかもしれませんね。
敷田委員	どうですか？環境省さん北海道開発局に相談して頂けませんか(笑) 同じマークができれば恐らく共通して使っても、誰も文句は言わないでしょうし。
シーカヤック事業者	関連して観光協会の青木さんが来ていますからお願いしたいのですが、来年度の知床のでっかいポスターありますね？あれにケイマフリをドンと乗せて配布する。というのは出来ませんか？
敷田委員	お互い協力する事が大切ですよ。(笑)
桜井委員	海そのものを売り込む時に、あまり色んな物に力を入れると大変なんですよ。ですから思い切って「ここはコレに」というようなものを見つけ出して、それをどんどんPRしていくのが良いと思います。
敷田委員	この業界のブランドマネージメントをされるお立場かと思いますが、いかがでしょうか？
観光協会	選択肢には考えてみます。(笑)
敷田委員	是非次の会議では良いお答をお待ちしています(笑)
敷田委員	皆さん共通で使えるものを作って頂く事には、誰も文句は言わないと思いますので、観光協会の存在価値も上がると思いますので是非よろしくお願い致します。
観光協会	ちょっとケイマフリそのものでは、ちょっと辛いのかな？と想着いてまして、それでズバリ「ゆるキャラ」にするというのがあって、たぶんですけれどグッズの人気は出ると思うん出すよね。鳥をモチーフにした物も全国には結構ありますからね。着ぐるみで一体60万円ぐらいで出来ますからね。
敷田委員	着ぐるみの話は別の機会にしたいと思いますので。桜井委員の提案のあった、ちゃんとした生態を説明をするビデオやコンテンツの作成と、ゆるキャラを含めた、そのようなキャラクター化やスター性の可能性についても同時進行で検討を進めたいと思いますが、皆様いかがでしょうか？
敷田委員	そうしましたら、もうひとつ報告の関連が残されていますので事務局から御報告をお願い致します。
福田委員	すいません。ちょっと戻りますが、基本的にはケイマフリ、この鳥は空も飛べるし、海にも潜れる凄い鳥なんだということをまず最初に持って来たいと思います。以前、葛西臨海水族館でウミガラスとかエトピリカとかを飼育しているのですが、それを見に来たお客さんが「これペンギンみたいだけども空も飛べるんだ」と感心していたんですが、そういうようにケイマフリもそういう能力を持った凄い生き物だという事を強調しながら、他のキャラだとかそういったものに移って行けるのが理想かなと思います。
敷田委員	仰るとおりだと思います。皆さんもそう御理解して頂けていると思うんですよ。ただ今の段階では研究者をしてらっしゃる人しか、その凄さが説明できない、他の人だと弱いということだと思うんですよ。恐らく研究している福田さんが凄いとされるのは当たり前に近い話で、例えば私が「綺麗です」といっても、それはなかなか伝わり難いので、直接関わりの無い方が、ケイマフリの凄さを伝えられるような素材提供が重要だと思うんですが、福田さんに協力頂ければ、これはすぐ実現可能な話だと思います。
環境省	ただ凄いという話だけではなくてですね。お客さんも2極分化するんですよ。ただそういう生き物がいる所へ来たということで喜ばれるお客さんと、割とサイエンスな部分でじっくり勉強したいというお客さんですね。それで恐らく両方が船に乗るんですよ。ですから、その両方に対応するという事が大事で、研究者の役割というのは、サイエンスの部分をガイドがすぐに説明出来る訳じゃないですから、そこを「凄い」と言うだけではなく、それを伝える何かを用意する事が大事なかなと思いますね。
敷田委員	それではコンテンツ開発について重点を置くと言う点で皆さんの意見は一致していると思います。
敷田委員	時間の都合も御座いますので、次の説明に移りたいと思います。利用動向調査、アンケート調査の結果など事務局からの報告をお願い致します。三つ続けて報告をして頂いてよろしいでしょうか？お願いします。
	・利用動向調査(アンケート調査)中間報告
	・観光船事業者によるウトロ海域観察記録報告
	・観光船事業者によるケイマフリデコイを使用した海鳥のPR報告

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
環境省	説明 資料1、資料2、パワーポイント資料
敷田委員	ありがとうございました。只今3つの御報告を頂きましたが、総合的に一括して議論してよろしいでしょうか？利用動向調査は皆さんに協力して頂き、昨年の試験調査に続いて実施された物ですが、非常に貴重なデータです。昨年も寺崎委員には評価して頂いたデータだと思うんですが、寺崎委員いかがでしょうか？
寺崎委員	最初見て思ったのは、我々もこういう調査を良くやっているんですが、大体の回収率は15%、良くて17~18%なんですけど、8月までの回答率は20%ぐらいまで上がっています。実際に旅行の内容が良かった場合と配布の丁寧さによって回答率が上がるというのが解っていますので、皆さんがやられてきた事が間違っていないかんだという事が言えると思います。また、さらに年齢別に集計するなど分析を深めることによって、面白い結果が出てくるはずだと思います。 いくつか気付いた点では、Q6でインターネットや雑誌を見たという回答が多くなっていますが、およそ2/3の利用者がそういう物を見ているという事で、そこまで高いのかと驚いています。雑誌も見ているんでしょうけれど、今後旅行分野では、今年のテーマとしてオンライン化という事があちこちでも始まっていますが、情報を取るだけでは無く、予約を含めてオンラインにしていけるというのが急速に広がっています。その結果として予約や空き状況も解る、そういうサイトを選ぶようになってきています。またQ8の「以前にウトロの観光船に乗った事がありますか？」という問いでは、2回以上乗られているお客さんが結構いるという事で、これは誇りにすべきだなと思います。それとQ15の「今回乗った船をお勧めしたいかどうか？」という問いでは、ちょっとグラフの作り方が意地悪で、本当は「勧めたい」の青いバーがずっと長いはずなんですけど80%以上のところで作られています。見易いようにとそうされたんだと思いますが、現在やられている観光事業は凄く評価されているんだなと思います。一方でコメントをばらばらと見させて頂きましたが、先ほどのガイドラインの話ではないですけど、特に知床に来られる方には、きちんと守られている自然を自分の観光で楽しみたいという人がいるんだなということが、アンケートの中にもきちんと出ています。今後知床観光が向かうべき方向性のヒントが含まれている気がしますし、皆さんが今やられているような事も、じわじわと消費者には伝わってきているのだらうと思います。
敷田委員	寺崎さんありがとうございました。昨年度は278通の回答しか無かったんですが、今年は圧倒的に数が集まっていますので貴重なデータになるうかと思えます。昨年度の傾向とあまり変わらない所もありましたが、これはその正確性を示していると思えますし、寺崎さんのお話にもありましたようにマーケティングデータとしても素晴らしい内容だと思いますので、ぜひ御活用して頂きたいと思えます。関連して御意見やご質問もあれば伺います。いかがでしょうか？
観光船事業者	調査に関してなんですが、小型船の団体客は元々少ないという所があります。当方では団体のお客さんも受け入れているんですが、団体客の場合ですとバスでそのまま乗り場まで入って、降りて来たら、またバスで次の場所へ行ってしまいうので渡すチャンスが無いということがあります。小型船の団体客の回答数が少ないという結果になっています。また団体さんの旅行会社から、自社のアンケートも配っているのでも、重複してアンケートは遠慮してもらえないか？と言われたケースもありましたので難しかったですけれども、ちなみに大型船の方では、私の予測なんですが船の中でお渡ししてるんでしょうか？
敷田委員	最後の1点だけ栗林さんいかがですか？
ユニオンリーダー	大型船の方はお客さんが帰港して階段を降りてくる所で直接お配りしました。お客さんのほとんどは船を降りたら、気持ちはもうバスの方に向かっていきますので、最初の頃はなかなか受け取ってくれなくて苦労しましたが、7月からはおーらさんの船内放送でアンケート調査の御協力をお願いをアナウンスしてもらいました。これが非常に効果的で、それ以降はスムーズに受け取ってくれるようになりました。予想以上の効果を感じられてすごく驚きました。色々アナウンスしなければならぬ所に、入れて頂きありがとうございました。大変効果的でした。
敷田委員	ということでした。いかがですか？
観光船事業者	団体のお客さんについては乗船時、下船時にお渡しする方法も今後検討したいと思えます。
敷田委員	ただ団体の人数なども一度教えて頂けないでしょうか？今回の配布方法が悪かったという事では無く、このデータを見る時の参考になるかと思われるので、栗林さんの方と一度御相談させて頂ければと思います。よろしくをお願いします。
敷田委員	それでは、大型観光船でやって頂いた海鳥観察記録について御評価を頂ければと思いますが、中川委員是非お願い致します。
中川委員	非常にいいデータが取れましたよね。本来の業務の傍らでやって頂いてこれだけの数をこなすのは大変だったろうと思います。ただ本来の業務の傍らでやった結果ですので分析には足りない部分があるかと思いますが、これを繰り返すことによって、データが重なって来て、ある季節にどこにいるかという事が解ってきますから、観光船のサービスにも使えますし、我々もデータとして利用できますから、是非今後も続けて頂ければいいなと思いますね。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
敷田委員	ありがとうございます。今中川先生から、難しい調査を本来業務の中でやって頂いて評価を頂きました。
小城委員	調査の中でトドが見つかっていますけれども、この時船内放送はされたんでしょうか？
観光船事業者	そうですね。大概珍しい物が見つかった時は放送を流しているはずですね。
福田委員	私は丁度その時調査で乗船させて頂いていたんですが、ちゃんと放送で案内をされていましたよ。また放送以外でも双眼鏡を持ってるお客さんには、色々説明されたりもしていますね。
小城委員	トドが見れた時のお客さんの反応はどうだったんでしょうか？
観光船事業者	すいません。私は船に乗っている人間じゃないので解らないんですが。。
敷田委員	もしよろしければ、その時に乗船されていた方が居れば、その時の状況はお知らせ願えませんか？
小城委員	例えば、そういう珍しい物が観察された時にどのくらいの割合でアナウンスとかするんでしょうか？
観光船事業者	そうですね。。クマなんかが出た時は良く案内しているようですが、私どもの船は大型船なものですから、そんなに近くで見る事は出来ないんですよ。全てのお客様が双眼鏡を持っている訳ではないですし。。
中川委員	スピードは落とす事は可能なんですかね？大型船などで止まったりすることは難しいと思いますけれど。
観光船事業者	ある程度はいけると思うんですけども、やはり時間的には余裕は殆どなくて厳しいんですよ。
中川委員	なるほど。全体の運航時間がありますからね。。
福田委員	イルカなんかが出た時には、船内が大興奮状態になっている時もありますよね。クマは少し厳しいですけどイルカはすごく喜ばれていますよね。今年はイルカが近くで良く出ていましたね。
小城委員	イルカはカマイルカなんですか？
福田委員	ほとんどがイシイルカですよ。
敷田委員	ほかに関連して何か御座いませんか？特に無いようでしたら次に進めさせていただきます。
	3. 今後の課題
	4. 次年度事業計画
敷田委員	それでは以降はまとめて議論させて頂きたいと思いますが、事務局から何か御説明はありますか？
環境省	それでは本事業で本検討会でもこれまでにできておりましたが、ホームページの作成について現在フレーム作りを行っておりますので、これについて説明させて頂ければと思います。
	・ホームページ作成について
ユニオンリーダー	・ホームページのページ構成について概要説明 パワーポイント資料
敷田委員	ありがとうございました。それではホームページの作成についてご意見いかがでしょうか？
環境省	せっかく、これだけケイマフリの話をしたのに、こんなに下の階層になってしまうのでしょうかね(笑)ヒグマとかケイマフリとか鯨類とか、魅力的なものをもっと最初に出てくるようじゃないといけないのかなと思いますけど。お客さんはそういうものを見たいんですよ。
福田委員	色々な物の見方ですね。「こういうものは小型船がお勧めです」、「こういうものは大型船がお勧めです」というようなものですね。お客さんはそういうものを見て選択できたら良いのかなと思いますね。
シーカヤック事業者	誰の立場で作られるのかを明確にして欲しいと思いますね。先ほど説明の中で「ある程度硬いイメージのものになってしまうかもしれない」と言われてましたが、あまり硬くなって欲しくないというのが私の意見です。一般の人が知床に行ってみようと思ったときにこれを見て、「ああ、行ってみたい」「この鳥を見てみたい」という動機づけになるような作りになって欲しいですね。
敷田委員	大型船のおーろらさん、いかがですか？

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
観光船事業者	そうですね。うちの場合ですと、船以外でどこがお勧めですか？という問い合わせが多いんですけど、勧めるところでは知床五湖、知床峠、フレベの滝、などですが、船以外の陸の案内も知床の魅力ですので、知床にお客さんが集まると私どもにもメリットが期待できますので。
敷田委員	他の小型船の方はいかがですか？
観光船事業者	そうですね。やはり、それを見て知床に来てみたくなるような内容のものがいいですね。関口さんが仰るとおりだと思います。
敷田委員	他の小型船の方はいかがですか？
観光船事業者	お客さんが最初にこのページを見つけれられるようにして欲しいですね。あまりどこかのページの中からリンクするようだとお客さんは辿り着けないかもしれませんので。
敷田委員	専門委員の皆さんはいかがでしょう？
福田委員	やはり言われたように、探したらすぐに出てきて欲しいですね。
桜井委員	今知床のサイトを検索すると、どこが先頭に出てきますかね？
中川委員	知床で検索すると知床財団が知床自然センターのホームページが先頭ですね。
桜井委員	そういうところからリンクして貰える様にすると良いんじゃないですか？
中川委員	検索するときのキーワードが大事ですね。
桜井委員	"知床"と"海"というキーワードで検索すると、最初に出てくるというのはどうですか？これなら上位に探せそうですね。
観光船事業者	一番トップに出てきて欲しいのは、自分のところのページなんです(笑) 一同笑い
敷田委員	中山さん、いかがですか？
環境省	先ほど関口さんから意見が出たんですけども、行政が作るホームページというのは概してつまらないものが多くてですね。注意事項ばかりが出てきて、そこで皆さんはどんどん飛ばしちゃうんですね。これもそういうページになってしまいそうですし、また環境省のホームページですとセキュリティポリシーだとかが厳しくてですね。外部へのリンクなんかも難しいかもしれないですね。僕はそういう仕組みを作るよりも、来年度事業では、むしろコンテンツを作って、それを地元の方々がうまく回していけるような形が良いのではないかと思いますね。
中川委員	いかに更新するか？これが良く見られるホームページになるかどうか、重要な点で、一人の人が更新していくのは大変ですので、複数の方々で更新できるようにするべきだと思いますね。
福田委員	大型観光船と小型観光船の両方の方々の方がブログを更新できるようにして、情報交換できるような仕組みもあればよいですね。
敷田委員	ホームページなんですけれども、テーマとしては野生生物としてのケイマフリですから、今回せっかく限られた予算で作るわけですから、ケイマフリに絞って作成するのはいかがでしょうか？ただし海域部会としても作る訳ですから、この背景の部分も紹介してよいと思うのですが、基本的にはケイマフリのコンテンツを作成していただいて、事業者さんの意見も聞いていただいて、他の生き物についても必要なものを盛り込むようにしたら良いと思います。ただしこの海域部会の目的を考えれば、いたずらに観光案内のようになってしまふ必要は無いと思いますね。逆に他の野生動物の部分が必要とするならば、合理的な説明が出来ないと、この部会としては無理があると思います。いかがでしょうか？基本的には事業者さんの意見を聞いて頂いてニーズに沿うものを作成して欲しいと思います。またコンテンツとしての動画の作成も検討していただきたいです。予算の関係もありますから、もし試してみれば来年度に向けての準備ということで、来年度予算化してやられれば良いと思います。
敷田委員	予定の時間も来てしまったんですが、ガイドラインの話題が先ほど議論に成りかけましたが、この話題はどういたしましょう？

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
環境省	先ほどお聞きしたのは、この部会でガイドラインを作ろうという事でお話した訳では無く、まずそのニーズがあるのかどうか？という点でお聞きしたのと、小笠原の例を出したのは、小笠原の例では行政がガイドラインを作った訳ではなくて、ガイドなどがみんなで作ったガイドラインですので、同様にウトロでも皆さんで作ってはどうですか？ということの問題提起をしたいなと思って、お話をさせて頂きました。おそらくガイドラインを作ろうとした時に、小城先生や福田委員のお話にありましたように、何に対して具体的に配慮しなければいけないのか、というのを解らないといけないと思うので、これは専門家の皆さんに聞いて勉強しなくてはならないと思うんですね。その中で、自分達でこういう配慮は出来るんじゃないだろうか？ですとか、シーカヤック、小型船、大型船、などで、それぞれ違うと思いますし議論もあると思いますが、それを行政サイドでやろうとするとかかなりエネルギーを使わねばならない事もありますので、むしろ小笠原のような方法で皆さんで御議論頂いて、行政としてはそのお手伝いをさせて頂くほうがいいのかなどと思って発言させて頂いたまでです。今のところ行政でガイドラインを作ろうという話をしてはいる訳ではございません。
敷田委員	解りやすくご説明いただきましてありがとうございます。桜井先生どうぞ。
桜井委員	非常に大事な事として、せっかくこういう協議会がありますのでね。今日も漁協の山本さんが来られていますように観光だけの問題では無いので、ベースとなるものについてはしっかり議論して、その話し合いの場としては、この協議会を使って頂いて、我々も提言するという形が私はいいと思うんですけども。それは要するに(観光と漁業の)対立構造になってしまうと良くないので、観光だけで話し合われて進められるのではなくて、今のように同じ土俵で議論されていますよね。こういう場所を使って頂いて議論していければと思いますね。
環境省	しかし自主的ガイドラインを作ろうとするのもなかなか難しいので、まずは注意点をまとめた物を作る、というようなレベルから少しずつ始めていければ良いのかなと思いますね。いっぱいある訳ですよね？先ほど先生がおっしゃられたような「午前中に給餌が集中しているようだ」とか、そういう事を明らかにしておけば御自分達でも考えていけると思うんですね。
敷田委員	ガイドラインを作るための検討では無いという事ですが、関口さんいかがですか？
シーカヤック事業者	そうですね。ガイドラインについて”検討する”という形ですね。シーカヤックなんかはコース的に一番近付いてしまう訳ですよ。そこで「なんでシーカヤックはそんなに近付くんだ？」と思われたくない。単純にそういう所なんです。ガイドラインがあれば、そのガイドラインに守られて「シーカヤックはあそこまで近づいていいんですよ」というお墨付きのようなものになるのかなとも思うんですけども。ウトロ海域部会の方向性として”規制をするものではない”という大前提がありますから、「ガイドライン」という言葉になると、何かこう言葉が独り歩きしてしまうような怖さもあるものですから。。。
環境省	それは、「ルール」とか”きまり”などでも良いのではないのでしょうか？
シーカヤック事業者	一番いいのは”ケイマフリにストレスを与えない距離”ということをやるのが一番いいんですが、「それじゃストレスを与えない距離ってどれくらい？」となると難しくなってしまうんですね。
環境省	シーカヤックの場合は小さいし動力も無いから多少近くても良いとか、動力船の場合は大きいので少し離れた方がいいとか、いろいろ細かい事があるでしょうね。そういう事を行政的に決めるというのは難しいでしょうから、皆さんで少しずつ勉強されながら良い物を作っていくという事なんじゃないかな？
シーカヤック事業者	そうですね。今仰られた注意点をまず挙げていくと、それは非常に大事ですよ。例えばケイマフリが海に浮いている時と、営業で断崖に居る時では、また違うと思うんですね。時期によっても違うでしょうね。そういうものを福田さんなどに教えて頂いて、そうすればおぼろげながら見えてくるのではないかと思いますね。
中川委員	今言われてあように、色々な状況によって変わるんですね。ケイマフリだけでなく貴重種に対してどこまで近づいていいか？と良く聞かれるんですけども難しいですよ。ですから注意点なり、ある程度判断できる材料という意味でガイドラインの様な物を作るということですね。
小城委員	もう少し面白く表現する方法は無いですかね？例えばクジラに近づくのは危ないんですけど、そこを「クジラの息は物凄く臭いんですよ。鼻が曲がりますよ。離れての方がいいですよ」とかでですね。
中川委員	以前からある言葉で”嫌な距離”というのがあるんですけども、相手にとって嫌な距離。嫌な距離というのは数字では表せないんですけども、それを解る。嫌な距離から踏み込まない。嫌な距離というのはどのくらいか？ということは、色々な専門家の意見を聞いたり、むしろ体験で解ってくるものもあるんですね。警戒してるとか、安心してるとかでですね。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
小城委員	そういう自然の知恵みたいなもの。野生生物と付き合う時の知恵みたいなものを纏めて、いきなり注意点とかガイドラインじゃなくて、そういうものをピックアップしていくと面白いんじゃないでしょうか？それをパンフレットの下に入れるとかですね。
福田委員	毎年海鳥の繁殖状況、ケイマフリの繁殖状況も分布状況も変わっていくんですが、シーズンが始まる前に皆さんで去年のデータを持ち寄って「今年はこういうことに気をつけて行きましょうか？」というような、話し合いを持って共通の認識を持てるようにしたら、いいんじゃないかと思いますね。
環境省	毎年でもいいですけど、季節ごとでもいいですね。
福田委員	例えば「お盆を過ぎたらフリー。どこ入ってもいいですよ」とか、そういう色んな話し合いをする中で、お互い共有出来ると良いかなと思いますね。
敷田委員	ありがとうございました。時間も過ぎてしまいましたので一旦私の方で調整をして、皆さんの意見を確認をして頂きたいですが、関口さんの意見、中山次長の意見は皆さんで共有できたと思うんですが、ガイドライン、これはルールという言葉に変えて頂いても結構ですが、これは基本的に規制はしないという事でスタートした海域部会の運営趣旨に馴染まないところがあるので、一度そこからの議論をしない限りは、いきなりガイドライン(ルール)の議論というのは無理があると思います。今日御参加されていない方もいる事は明らかですし、その人たちの意見も踏まえる必要があると思います。お話聞く限りでは関口さんのようにガイドラインがあった方が運営がし易いという意見もありますし、これは業態によっては差があると思います。そう考えると、検討には時間の要する事なのでまず今回はここまでにしておき、次回の検討事項としたいと思えます。最後に福田さんからご発言があったように、おそらく今の段階としては、ケイマフリに対する情報も十分ではないですから、情報を共有する方を優先した方が、いきなりガイドラインというよりも、「こういう配慮が効果的だ」とか「こういう配慮をしてると良いですよ」など、経験の共有の方が効果的だと思いますので、当面ガイドラインは検討はしてもいいですが、ガイドラインという名前では無く、福田さんが仰ったように「配慮の共有」というような形で議論する方が望ましいと思います。
環境省	”共有のための仕組みづくり”というような方が有益かもしれないですね。
敷田委員	そうですね。恐らくそれは、この場を継続するのが一番簡単だと思います。事業は来年度までというお話ですけれど、この場を別の形でもいいですので、継続してこのような情報交換を続けて頂くのが選択肢として一番いいのではないかと思います。特に小型船の場合は協議会ということですが、船の大きさや規模、スタイルも違うと思うので、この場で何か意見を汲むのも難しいでしょうけれども、いかがでしょうか？この部会自体がエコツーリズム戦略が出来ますと完全な部会化されまして、新しい戦略の中でルールやガイドラインも含めてですけれども、何かをするときには提案型で発議をするというスタイルになりますし、行政の方からのお話では無くなりますので、むしろガイドラインが必要だという時には、エコツーリズム検討会議の中で環境省の方から”ルール作りをしたいんだ”という御提案を頂いて検討を始めるのがフェアだと思いますので、いかがでしょうか？ と言いますのは野生生物との関係というのは陸上生態系でも、恐らく同じような問題になるので、海域だけでそれを先行してやることについては、恐らく陸上の方からも色々な意見があると思うので、座長としてはこの場での検討は当面しないという事で結論としたいと思います。いかがでしょうか？その代わりに福田さんから御提案頂いた「経験配慮の共有」を毎年していくし、環境省はその場を維持するという事ですね。
環境省	そのぐらいから始めていったほうがいいと思います。そういうものの積み重ねの中からルールにしていった方がいい物を見つけて、ルールを作って自らを律していくような事を検討されていったら良いのかなと思いますね。小笠原でもそういうふうにして進んできました。行政はその部分では何も手を出していませんから。
敷田委員	関口さんいかがですか？
シーカヤック事業者	はい、いいと思います。やはり”ガイドライン”というところが決めたものにしても、ガイドラインという味気ないんですね。もっと複雑なはずなんですよ。『そういう事を我々はやっていますよ』という、そういう取り組みにしたいですね。
環境省	お客様の方も、逆に「どうしてるんだ？」と聞かれる事もあるんですね。それで、そういう事をきちんとやっている事業者が”良い事業者”というような風潮もあるので、小笠原の場合ではルールブックというのをいくつか作ったりしてですね。それはガイド事業者と専門家が話し合って作ったルールが多いんですけども、法的規制も含めてルールブックは作っているんですけども、そういうのを作っている事をアピールすることでイメージを良くする、というようなこともやっているんですね。ルールを決めていた方が楽だから、ということも、そのうち出てくると思いますし、今日ガイドラインという話が出ましたので聞いてみただけで、そういう難しく考えるのではなくて、むしろ積み重ねていくために、どうやったらいいの？議論していければいいのかなと思います。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
敷田委員	ありがとうございます。おそらく共有する配慮については、事業形態によっての違いもお互いに解っていれば調整も出来るでしょうし、是非そういうものも含めてご検討頂ければと思います。先ほど次長が仰られましたように、それが最終的にガイドラインへ、長い時間が掛かって変わる事もあるかもしれませんが、当面はこの海域部会のスタートの部分に従いまして、規制、もしくは規制と考えられるものよりも、利用の仕方を宣言するという方向で行くという事で、ご確認をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか？
	(一同 異議なし)
敷田委員	関連して最後に御意見はいかがでしょう？
小城委員	こういう生態が良く解っていないケイマフリについては、毎年の継続的なモニタリングが必要です。この事業は3年間ということになっていますけれども、例えこの部会が無くなってしまっても、環境省ではモニタリングは是非続けて欲しいと思います。
敷田委員	御意見ということでよろしいでしょうか？なかなか環境省もすぐに、それを保証するとは言えないと思いますので。
中川委員	ただ科学委員会の中でモニタリング調査項目を挙げており、海鳥も入っていますけれども、しかしそれをどこが責任を持ってやっていくか？今は環境省でこういう形になっていますけれども。しかもモニタリング調査だけでなく、今回のように幅広い人たちと情報を共有して、それを活かしていくというシステムが必要だなと思いますね。
小城委員	最悪の場合でもモニタリングは続けて頂きたいと思いますね。
敷田委員	先ほどお話ししましたように、エコツーリズム戦略が今作られつつありまして、その枠組みが出来ますと、恐らくこの海域部会というのは、基本的に利用を考える場ということで位置づけられる事になりますので、例えば純粋な生態系の調査というのはここでは扱えなくなると思いますので、環境省としては、その辺を御考慮をお願いしたいと思います。今は利用とセットとなって利用の影響があるからということでここで扱っていますが、そこを超えてケイマフリ自体のモニタリングとなると、ここでは扱えなくなると思います。あくまでもここでは利用とセットで扱ってる部会なのでよろしくお願いします。
環境省	利用とセットなのは解るんですけども、その前提としてモニタリングが必要なのではと思いますけれども。
敷田委員	はい。もちろん、その理由があればいいんですよ。
桜井委員	海域ワーキングの方で指標種を決めておりますので、5年に一回に見直しをかけています。今はオオワシとかオジロワシが入っています。それから今のお話聞いてケイマフリが非常に重要だとすれば、少しランクを上げて指標種とならずとも重要種として位置付け、モニタリングの話は海域ワーキングの中で議論出来ると思います。
敷田委員	私もまったく同じ意見で、ここで利用を前提で扱うよりも、そもそも重要な種ということで海域ワーキングの中で扱って頂くのが正当だと思います。
桜井委員	そうすると、それに対してどういう対応をするか？という相談が出来ると思いますから。
環境省	はい。解りました。
敷田委員	特に追加してお話はありますか？
事務局	事務局はありません。
シーカヤック事業者	基本的な所なんですけれども、言葉が悪いんですけども、私たちの客商売からすると、売って行くのはケイマフリなんだという事になってちますよね。
敷田委員	ちょっと表現が違うかもしれませんが、海域部会で扱うのはケイマフリだけではないという事は前々回の会議ぐらいから進んでいますけれども、当面はケイマフリについての問題が大きいということで皆さんと意見を共有出来ていますので、ケイマフリについて議論していますけれども。。

平成23年度 適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会

第2回 部会 平成23年10月5日(水) 世界遺産センター

発言者	発言内容
シーカヤック事業者	はい。中川先生にお伺いしたいんですけども、ここにオジロワシというのを付け加えるというのはどうでしょう？
中川委員	今、海域利用でいうとオジロワシが海岸まで出て来ていたり、岩にとまっていたりするんですけど、同じような事もあるんですよね。ですから海鳥の中にオジロワシなども含めて考える事が出来ると思うんですが、ただオジロワシやオオワシについては、環境省の保護増殖事業の中で色んな調査も行われていまして、そちらはそちらで色んな検討がされていると思いますので、ウトロ海域部会の中でも今後扱うようになるかもしれないですね。
シーカヤック事業者	ガイドの立場から見ると商品という考え方なんですけどね。初めてのお客さんというのは、まず大きな物に目が行って、その次にケイマフリが可愛いね、というふうになるんですね。その導入の仕方としては、オジロワシとケイマフリをセットにするのは有効かなと思うんですよね。
中川委員	以前からですね。オジロワシを夏にみたいという意見も聞くんですが、しかしですね。オジロワシの営巣地に踏み込むのは影響もあるので、なかなか見る事が出来ない。陸上から見ると観光船に乗って下さい」と前から言ってるんですよ。船だったら見えますよと。「岩場を注意してると見るとそこにまっていますよ」という事も説明されてますよね。そういう猛禽類の中でも人気ありますので、商品といういい方がいいかどうかありますけども、体験して欲しいとは思いますが。
福田委員	意外とオジロワシって陸上に居る時って見つかり難いですよね。その点やはりケイマフリというのは手軽に見ることができるんですよね。
中川委員	ただし、近付き過ぎたり、飛び立たせたり、それも一日に何隻もやって来て飛び立たせたりすると、鳥は嫌になっちゃいますからね。
敷田委員	おそらく整理の仕方としてオジロワシという提案は新しいと思うんですが、ここに御集りの皆さんは海域の利用に関して調整や相談や共有が必要な素材を扱うということなので、オジロワシに関して何か情報交換が必要であるというのであれば、御提案は全く問題は無いと思います。先ほどの桜井先生の御発言と一緒になんですが、ケイマフリやオジロワシの調査を単体で扱う事は無いというのが、最初の合意のとおりです。
シーカヤック事業者	オジロワシも存在感の割に、かわいそうだなと思ひましてね(笑)
中川委員	それとですね。影響を受けている可能性があるんですよ。実は、以前は船から巣が見えている所があったんですが、それがど陸側に移ってしまったり、無くなってしまったりして、もしかすると影響があるかもしれないですね。ですから利用を改善して、ケイマフリと同じように影響を与えないという形を取って行けば、また海岸に巣が復活するかもしれないですよ。
敷田委員	ありがとうございます。時間もかなり過ぎておりまして、長時間にわたって議論頂きありがとうございました。事務局にお返しします。
	閉会
環境省	活発な御議論ありがとうございました。途中色々なアイデアも頂きました。またケイマフリという切り口ですけども、皆さんの活動は保護と利用が上手くいくような形で進められればと思いますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。本日は誠にありがとうございました。